

信州大学

山岳会

97

夏合宿報告書

8/23 ~ 8/31

英刃

夏合宿 97

もくじ

1. 行動記録 1
2. 係からの報告・反省 18
3. 個人の感想・反省 24
4. 事故報告 41

1. 行動記録

8/23

大木 B 信介

4:30 起床

5:10 Box 出発

7:55 黒部湖着

8:20 出発

3:35 Bパーティ 内蔵助平着

5:20 A

→ いろいろと事故. その他があたらしい。Bパーティ
自分には状況がよく分かる人が. みんな頭がフツ
ツツしててこわい。

荷物は45kg. ツバリングで3番目たったのになぜか1番重くな
ってしまた。でも2年生のザックはどれも化け物のような大きさに
なり. 50kgになっている。縦走で40kgぐらいのザックは初日に
持ったが. 5kg違うだけでずいぶんとかわると実感した。

最初の2本は重いと思うだけで歩けたが. 3本目から急に重く
感じるようになった。ズシッ!!ってやつを感じた。これが40kg
以上の世界か... などと思いたからひたすら歩いた。すると. たん
たん倒木やら木が登山道を犯しはじめるではありませんか。す
ごくうざ. たく. いちいちつかれる。おまけに毛虫にさされて自分のジ
ンペンをかけるはめに... とにかく木を1つくぐるたびに疲れた。

疲れるとはいえ. 最強とか言いたから入会した自分たので弱
音ははけない。オレは強いと自己暗示をかけながらがんばった。団
装が変わらないというのはショックだが. 明日もがんばるぞ。

B大木は3番目だ、たろしいが、ぼくは1番かたのに40kg over
はじめうた、ていたろ博多さんに「こいつバテるな」と言われた。て
ろ本目バテていた。このあとほここでケがしたろ帰れるかなとか
本気で考えてしまった。サックもこわれるし、竹はささるし、「マジで
切れてる5秒前」をうたいながらるピョッケルをふり回していた。

せいじ (Aパーティ)

1本目、黒部湖から下、ている途中で大須賀が登山道から
転落。内蔵助平手前で佐々木が足を滑らせて足を強打。
いずれもたいした事無か、たが縦走合宿で歩けなかつた隊か
多か、ただけに、その影響か出たのかもしれない。

川井

8/24

記録川村

B隊行動

4:00 起床
 6:08 内蔵助平下S 発
 6:53 着 本 1750m付近
 7:11 発
 7:52 着 本 2000m付近
 8:08 発
 8:48 着 ハニユ谷集戯 エンマ尾根上
 9:20 発 地域研究 熊周辺
 10:08 着 尾根から下
 10:25 発
 11:18 着 真砂沢まで あと約10分付近
 11:33 発
 12:10 着 真砂沢口付近
 13:48 発
 14:48 着 長次郎舎との 社会い P1E"ン 到着
 15:45 発 (後発隊)
 16:23 着 雪溪上で 本
 16:33 発
 17:23 着 長次郎 右岸の大石岩付近
 18:06 発
 19:32 着 熊ノ岩 B,C

後発隊

11也 - 今日は本当に疲^れれた。真砂沢口付近から熊ノ岩
 までほんとに長いと長いと。今日はくすりおてもみLTにいいかな。
 こんどエッセイなんでも。はい。元気にエッセイも書いてみる。

佐々木

4:00AM エssen 起床
 隊 6:10AM 内蔵 助平 出発
 7:00AM 一本
 ……
 1:20PM 真砂沢 ロッシー到着
 1:48PM 発
 2:48PM 一本

2隊 (左記に同じ)

時計がないのでちゃんと記録をとれず、ごめんすね。

今日はとてつかわれた。Rさんによれば、内蔵 助平 → 真砂沢 ロッシー
 まで 3.5時間 ということだが、予備30分たてていこうに
 かけるにはしなかつた。というわけでは Rさんは…?
 さて、今日はゆくり休んで、あしたからの とはんをがんばら
 けます。

P.S. みなさま、大変 おつかれでございました。

アベシ、ヒテア、で感じの1日だった。 川井

寝ましょ。島

8/25

(夜行 野回)

<1p>

9:00 B-C 発

10:15 久留米大ル+取付

20:30 富山木へ到着

13:45 終了 (D.フェース野)

15:10 B-C

15:30 トラボースが おもいおつた。

<2nd p>

Cフェース RCCルート

記録 日高

メンバー: 花谷 弘 島 日高

ESSEN起床 7:00

B.C出発 10:00

取りつき 10:40

終了点 13:00

B.C到着 15:30

初めての本ケル。RCCルートは一番簡単なルートらしい。ルート自体は難かしくなかったが、「落とされたい」ということが少し恐怖だった。1ヶ所、体が岩から離れそうになったときは本当に恐かった。今までに行っていたケルと違って高度感というのか、すごくあって楽しかった。あと、Cフェースからの下りのフィックス地点は恐かった。

<3rd p>

Aフェース 魚津高ルート メンバー 川井 高橋

EsSEN 7:00

B.C出発 10:00

取りつき 10:40

終了点 11:40

B.C着 2:00

いっせー楽しんでたね。
Fからみ子とたいたことないケルけど、
登ってみ子と、少し前傾したりして、
こわくて、Fのしかた。
たいたはDフェースにいきたくて、
ピークの9はみ子にいきたくて、
高橋

<4th p>

Aフェース 魚津高ルート メンバー 博多 大須賀 福士

EsSEN 7:00

B.C出発 10:00

取りつき 11:05

終了点 1:15

B.C着 2:30

久しぶりの岩だったから緊張していたけど、登り始めたら、霧中になっていた。このままずっと天気よこしを願うのがである。

博多

<5th P>

A フェース 中大ルート

メンバー: 原田、大木、深沢

Essen 7:00

B.C 発 10:00

取付点 11:20

終了点 13:00

B.C 着 14:00

かなり4スかた。亮介さん予想外
だと言っていた。よまで2ピッチで行けた。

1ピッチ目はレイバックつづきでむずく。

2ピッチ目はすごく楽だった。

1ピッチ目 45m. 2ピッチ目 30m

<6th P>

C フェース 剣菱会ルート

メンバー: 松本士人、岡本、佐々木

取付点 10:00

終了点 13:00

B.C 到着 15:35

1ピッチ 35m

2 : 40m

3 : 45m

4 : 25m

5 : 47m

6 : 5m

初めての本チャンでドキドキしたし、最初は どう 難対知す水は
いまいちわからなかった。さらに、「おちる前に AQ」とはこじはばかり。

どこにも スンチク をかけるのだ... というのが 今日 の 感想。

だけれど、トラバースの スリル や スラフの まよい、セローターとの コンタク
ecc... 全部 (1313) 楽しかった(?)

佐々木

7th P >

A フェース 中大ルート

メンバー: 田中士人、岸本

取付 10:10

1ピッチ (45m)

終了 11:45

B.C 着 14:00 ころ

立岩のモロ木に毛がはえた程度と聞かされたので、毛を
自分でも簡単に登れるだろうと、快適な登りを期待していたが

予想以上に手強いルートだった。1本目が特に難関で

5m 程度上所から手がかりがめ、エリ少く有り、いやらしい

ルートだと1人思った。岩の質がすべりにくが、足が滑るのを救っていた。岩の上には

流動分散する水を使うとが、足で滑っていた。今日は先輩と一緒に登ったので、

が、習ったことは完璧に覚えるようにした。岩壁に響く声、負荷が掛かると、亮介さん

が岩にトリツカれるのが、少しわかるようになった。明日はここに登ろうと楽しみにしている。

<8th p>

Cフェース 剣陵会ルート

メンバー 中島、川村

11:10 剣陵会発

11:20 1ピッチ終了 25m

11:50 2ピッチ終了 40m

12:30 3ピッチ終了 40m

13:07 4ピッチ終了 20m

13:50 5ピッチ終了 45m

15:50 3 BC 着

初の本キャンはなんなんのものでLT。高度感がたまらなくてすね。
「タイリツ」のトバースは、ちよとルートより上にいってしまっ、Tの2"
ひやひやもんでした。 川村

8/25 夜 ビューク訓練

それはそれは綺麗な星の夜だった。

わおか一人分のスペースに僕とR介さんは

肌と肌を寄せ合、て寒さを熱さに変えた。

僕はあの夜を忘れない。おと... 島

8/26

<1st p>

メンバー : 川井 島

Cフェース 剣陵会ルート

Aフェース 魚澤高ルート

エッセン起床 4:00

出発 5:25

取付 6:10

終了 8:24

取付 10:40

終了 12:50

B.C 2:30

岩登り嫌いの僕をつき動かしているのは
ただビュークでのタバコと景色だけだ。
だけど今日はすよと楽しかった。 島

<2nd p>

A7 = 入魚津高ルート and 五峰(八ヶ岳)

X = パー: 田中, 中島

7:00 取付き (魚津高ルート)

8:10 3ピッチ終了着

8:50 出発

9:30 5.6のころ

10:50 5峰取付き

11:30 ← 中島が本峰を終時ハートンから11時5分ころに到着

13:15 5峰の頭 (4ピッチ)

14:50 岩小登

15:10 BC

魚津高のA7 = 入は3ルートを同時に登ることに

7ピッチ、時間の短縮

又、腹の調子がわるく、5回もクワガス

5峰には、取付き直後にほんのりかんたむ時間がかかった

2P目、7ピッチの間に浮石が落ちて、2. 激怒

5峰の頭は4ピッチ

記録 川村

<3rd p>

X = パー

原田リョウ

岸本俊朗

川村

D7 = 入 富山大ルート

7:30 取付き着

1ピッチ 40m 8:00 発 ← 8:45

2ピッチ 35m

3ピッチ 37m 9:02 9:15

4ピッチ 43m 9:41 9:52

5ピッチ 30m 10:11 10:18

ちよとルートが違ったらしく、1ピッチ目が私にはおそろしかった
けど、あとは深〜クワイミングでした。しかし、みんなお腹痛めで
来た。とっせつらい本でした。

<4th p>

メンバー：原田、岸本、川村

Bフェース 京大ルート

12:30 取り付き 1キロ、4 43m

13:50 終了 2 : 43m

3 : 5m

岩小屋 14:41

B.C着 15:05

京大ルート楽しいわ。ほんとナイフエッチはスリリング。今日はRさんのHappy Birthday。21才おめでとう。あ〜もう21歳。

山での21才。いかがですか。

川村

<5th p>

メンバー：花谷、大須賀、高橋

Dフェース 久留米大ルート

出発 5:25

取付 7:40

終了 10:20

夏合宿はB.Cに着いた後
後は楽しいたけたな。

今日の登はんはちょっと寒かった
けれど非常に面白かった。

Cフェース 剣糸会ルート

取付 12:20

終了 14:10

<6th p>

メンバー：麦谷、岡本

Aフェース 中大ルート

6:15 とりつき

8:05 終了

1キロ、4 49m

2 : 25m

Dフェース 富山大ルート

9:55 とりつき

13:00 終了

1キロ、4 35m

2 : 30m

3 : 40m

4 : 30m

15:05 BC

5 : 25m

<7th p>

メンバー：松本、大木、日高

A フェース 魚津高	1P. 40m
6:10 取り付き	2P. 35m
8:00 終了点	3P. 35m

B フェース 京大ルート	1P. 40m
9:10 取り付き	2P. 30m
10:50 終了点	3P. 35m

13:00 B.C 着 (大木)

<8th p>

メンバー：麦谷、岡本

A フェース 中大ルート	1P. 4 49m
6:15 取り付き	2 : 25m
8:05 終了	

D フェース 富山大ルート	1P. 4 35m
9:55 取り付き	2 : 30m
13:00 終了	3 : 40m
	4 : 30m
	5 : 25m

15:05 B.C

<9th p>

(野田 佐々木)

5:30 B.C 発 6:30 RCC 11ト 取付 7:00 発
 10:00 C フェースの頂 12:00 魚津高ルート 取付
 14:30 A フェースの頂 コルダに比べて非常に苦学する
 利がパラパラ来て（ワッ本降）にたまたまにたまたまだった。
 3:50 B.C.

8/27

<1st p>

源治郎尾根

メンバー、L田中、SL麦谷、博多エン、川村、島、岸本
源治郎尾根 → 剣本峰 → BC

BC 5:08

源 郎尾根取付 6:10

ヤブをこえ REST

稜線の終わりで下山決定 10:20

下山開始 10:40

懸垂 → Fix

13:00 川村が落石により顔面辰付近を負傷

→ 長次郎の雪渓にうつる。2:46、この時川村が3m程
滑落、軽く足をひねる。

田中も少し滑落気味、サイルが出た。

B.C 着 17:35 (麦谷、島、岸本)

残りのメンバーは少し遅れて到着

今日の縦走はほんとに縦走だったのか。源治郎尾根の取りこ
きから自分はカフを突き進んだ記憶しかない。距離的には短かい
行程で、途中下山という結果になってしまったが、全て70°、80°の急
登で(というより半分登はん気味)、アクシデントもあって、肉体的にも
精神的にも疲れた。事故の現場に居合せた人間として言わせても
えは(こんな事を言うのは不謹慎かもしれないが)あれだけの被害で
すんで本当によかった。事故はあってはならない事だが、今回の経
験は自分にとって大きな意味をもつものだった。応急手当の技術
ぐらいいはし、かり身につけたい。

(記:岸本)

(群しくは後述)

2nd p) ハツ峰 ~ 本峰

メンバー：原田、野田、深沢、佐々木

1. 原田、佐々木パーティー：Cフェース金刀校会ルート。
野田、深沢パーティー：Bフェース赤大ルート
2. Dフェースの頭で合流し、本峰へ。
3. その後長次郎谷雪渓を下る。

Cフェース取付 5:50

終了 8:10

本峰到着 13:15

B.C 16:10

今日はけこう気持よくCフェースを登る
Dで野田隊と合流。その後のFixをは
ているところまでこわい思いをし、その他い
ろいろありましたか。本峰、縦走中立て
なかつた山頂にたてよかつた。その後、
雪渓でダンゴを軽駈。雪渓は登る
より下る方が神経をつかう。でもいろいろ楽しい1日たつた？

P.S. Rさん、登はん中、う〇〇、う〇〇連発するのはよしましょう。
それと、よしこちゃん、みたか、たね。

源右郎尾根 (野田、深沢、分隊)

5:07 B.C 発 6:15 赤大ルート取付 8:00 Bフェースの頭

着石が軽い。1-ギルの(取付近辺)流が、いざいざむくく他うい。

リッジは最高で、最後の三角木馬、めたいなのがかつと恐くて、刺殺的

<3rd p> チンネ

メンバー：松本、花谷、中島、川井、大須賀、大木、岡本、日高、福高、高橋

・左稜線：中島、大須賀

5:00 B.C 発
10:00 取り付
17:10 終了
20:30 B.C

とても長くてつかれた。しかし晴れ間から見た景色は最高だった。

大須賀

・左稜線：川井、福士

5:00 B.C 発
10:20 取り付き
17:40 終了
20:30 B.C

心配していた天気も、もってくれてよかった。初めて14ピッチという登はんを経験した。かなり快適な登はんを楽しめた。ここはおすすめ。来年もまた来たい。あと、チンネの頂きから見た雲をまじった北アルプス

はサイコーだった。思わず「神」を感じてしまった。

帰り、ま、暗になりかなりこわかった。こんな時は無理せお落ち、いてゆくりと。

川井

・左下カンテ：花谷、大木、岡本

9:40 取り付き
10:10 登はん開始

1P 30m レイバウ使用

2P 20m アブミ

3P 45m

4P 40m

5P 45m

かレかレ

6P 左下カンテ 35m) 激ムス

7P 25m

8P

9P 左稜線

10P

チンネローク 16:30

BC着 19:20

・千ヶ浜 北条新村 ~ g 千ヶ浜 - cd ^{No.} 777 _{Date} 7.

メンバー: 穂高、高橋、日高

B.C. 出発

10:00 北条新村 とりつき出発

13:00 3ピッチで北条新村の出口点

13:50 g 千ヶ浜のとりつきから登り始める。
ザックが邪魔でなかなか登りづらかった。

16:00 千ヶ浜 終了点。まだ他のパーティーは来てなかった。
ガスって、ほとんど何も見えず、風が強くて
雨具を着ても寒い。

B.C. 到着

[感想] 北条新村の核心部ではアブミを出したのに、必要以上に緊張して、すぐにパニアしようになって怖かったが同時に面白かった。

天気あまりよくなく寒くて登る最中、キヤ足の先が冷たくなって、あまり感覚がなかった。

今度行く時は晴れてほしい。是非また登ってみたい。

日高

8/28 休息日。

松本、川井、川村は松本へ下山。

・剣澤の診療所に行き、川村の様子を見てもらうが、何も問題ないとのこと。下山後も病院に行きたが、シフトをはるれたぐらいだった様子。本人も元気に歩いていたし、とりあえぬよかった。

川井

Date
8/29

<1st p>

メンバー 花谷、佐々木、高橋

Bフェース、京大ルート

5:20 B.C 発
6:25 取付き
8:10 終了点
12:10 B.C

今日で 登はん 4日目、手首もいたいし首もいたい。Bフェースはかしかしたけど、リッジは会持さいい。天気もいいし、本峰は会持さよさそうだ。

<2nd p>

山内隊

隊員：深沢、岡本

5:29 出発
魚津高ルート
6:00 取りつき
7:30 〆ーウ
久留米大ルート
8:55 取りつき
11:20 〆ーウ
中大ルート
12:50 取りつき
13:30 スタート
15:00 〆ーウ

今日は昨日と同じく快晴で最高たつた。はじめのルートは魚津高たけた、たか。ホールにもしかりあり、楽しいルートたつた。団装心ナを1つおとした。

久留米大ルートでは核心をたつべくフリーで行こうとした。落ちそうになりソウとした。安全第一!

中大ルートは2回目。初めて登ったのが1日目で、それかすけ、こう登ったので少しは割れたかと思っていたが、前の時以上に恐かった。(深沢)

<3rd p>

彦谷、堺パーティー

(剣稜会、魚津高)

4:00 起床
5:25 岩小屋
6:00 登はん開始(剣稜会ルート)
9:15 登はん終了
10:35 登はん開始(魚津高)
1:15 登はん終了
2:30 B.C着

剣稜会3日目で堺さんか大きな石を落とす。下には人がいたから死んでいたらちがいはいい。堺さんもっとしっかりしてくれ。

<4th p>

11ヶ峠 博多山 大木 大須賀

4:00 インセン起床
5:25 BC 発
6:15 D7エース 富山 峠
7:00 1P 20m
7:30 2 30m
8:00 3 30m 核心
8:30 4 30m
9:30 5 45m
10:05 6 45m
10:30 D7エース 頭
11:05 下山開始

11:50 A7エース 中央大ルート 峠
12:00 下山開始
1P 45m
2P 45m

3:00 BC 着

<5th p> 田中・野田パーティ

<D7エース富山下ルート>

7:00 取付ま

↓

8:30 D7エースの頭

D7エースの核心でツボリキウになり先あせる。

後は、リッジにて快適なクイックで期待できる。

<C7エース右ルート>

10:30 取付ま

↓

12:30 C7エースの頭

取付まが、分がりにく。また、取付ま付近は岩が大変多いので
要注意。また、核心と登られているため、11ヶ峠、ボルトの残置も
可なく、50m 前後は11ヶ峠にて、11ヶ峠に、ランナー1つなどということ
も。また、このルート的には、カンタンで、快適な山角とスリッパ登りが
体験でき。

13:00 Fix 回収 14:00 ~ 14:15 岩小屋 ~ 14:50 岩 C /

8/30 下山

No.

Date

8/30 天気 晴れ

- 3:00 起床
- 5:30 出発
- 7:10 長次郎谷出合
- 7:55 真砂沢ロッヂ
- 10:15 ハシゴ谷乗越
- 12:00 内蔵助平
- 4:10 黒部ダム駅

2日間歩いたコースを一日で歩くわけだが、あのときはザックの重さも違われ、下山147-という究極のエネルギーが我々にはあった。登りも一部分のみでは下り中になつてよほど苦勞はしなかつた。内蔵助平の荒れた登山道もザックが軽かつたので笑ながら通過できた。

A 10-11

記録 妻谷

- 3:00 起床
- 5:35 熊の岩B.C. 発
- 7:10 長次郎谷出合
- 7:55 真砂沢小屋
- 8:15 : 発
- 10:07 ハシゴ谷乗越
- 11:27 内蔵助平橋
- 13:50 : 谷出合
- 15:35 カム着



駆け抜ける

KISHIMOTO
SHUNROU

夏合宿770-千で2日かけて歩いた道を1日で歩けたのは夢のようである。オレ連っていったいどんな荷物を持っていたんだとも思う。扇沢で川井、河村がいたか。河村のけさも木はとはなくてよかった。ようやく下界に戻れたかもといたかったような気がする。

2. 係からの反省・報告

No.

会計・渉外 報告・感想・反省 中島辰哉

《会計》 (報告)

1) 収入	a. 合宿費(部員 18人)	360,000
	山内さん	10,000
	堺さん(交通費等差し)	8,300
	松本穂高さん	10,000
	博多さん	20,000
	b. カンパ 長沢さんより	5,000
	c. 松本会計から	57,000
	小計	470,300



2) 支出	a. 装備代(ゴピー代金)	216,447
	b. 食費	178,923
	c. 渉外(トリー代(往復))	55,440
	・途中下山隊交通費等	12,000
	・山内さんのトリー代	1,260
	・ガス代	5,500
	小計	469,570

3) 計算上 差額	730
4) 実質 残金	1,699
5) 使途不明額	969

(感想)

収支金額が莫大でありのは、部員数に比例当然である。それと、何だかんだ言ってもイベント、装備代が加算された。結果的には差引き730円となったが、実は、残金が不足し松本会計からお金を出してもらった。当初合宿費 2万円は資金源の可能性がある見込みで決めたのであったが予想以上の出費であった。今回もし室堂下であったならば、遭対基金の5万を使っても足りなかった。合宿時に色々買い足したりしなかったらならぬという点にやはりもう日頃から装備はちゃんと管理してもらいたいのと思う。今回の実質残金は松本会計に回します。

《渉外》 反省点は下山時のトリー(入等)の最終時刻を調べていなかったこと。幸い真砂のROVで働けたが、別の場所でも小屋も外にもたけいぼ終っていた。別の山隊でも、Escapeの交通も調べておく必要がある。

0000

報告

消費品目 (自己申告)

- | | |
|---------------|---------------------------|
| ・MSRのボトルヘッド 1 | ・ホワイトガソリン 11.5ℓ (76ℓ/人・日) |
| ・ローソク 5本 | ・単3電池42本 |
| ・シュリンゲ5本 | ・無線機のアンテナ 1 |
| ・カラビナ3枚 | ・ナイフブレード 3 |
| ・アングル 3 | |

反省

一番大きな問題は僕が係りとしてあまりにも未熟であった事だろう。まず、準備がなっていないくて、人数が多いので早く済むだろうとタカをくくっていたのだが、人数が多ければ多いほど仕事も多いわけで、また目が行き届かない分早く終わる事はない事に気づいていてしかるべきだった。

買い出しの手際も悪く、危うくシュリンゲがそろわない事態が起こるところで、これから買い出しはあらかじめすべて買って置く、もしくは注文しておいて取りに行くだけにしておくべきだと痛感した。

今回の装備について僕が把握しているのは登山具だけだったと言ってもいいくらいに全体について把握していなかった。この事については僕に聞きにきてもわからないという事態が起こり、みんなには大変面倒をかけてしまい申し訳無かったと反省しています。あと合宿前に装備の数をチェックしたうえで足りないものを買、計画書の数だけ装備をもっていったつもりであったが、帰ってから数をチェックしてみると計画書よりも多い物品があった(チェックの後に黙って団装を返した人がいる、もしくはBOXが汚なくて発見できなかった物品が新たにでてきた)。結果的に紛失したものと、残置した物の数が正確に解からなくなってしまった。僕が準備の日に数をすべて改めていればよかった問題なのだが、それにしても団装、BOXの扱いには目に余るものがあり、みなの命を預かる共通の財産である事を再確認し、大切に扱いたいものである。

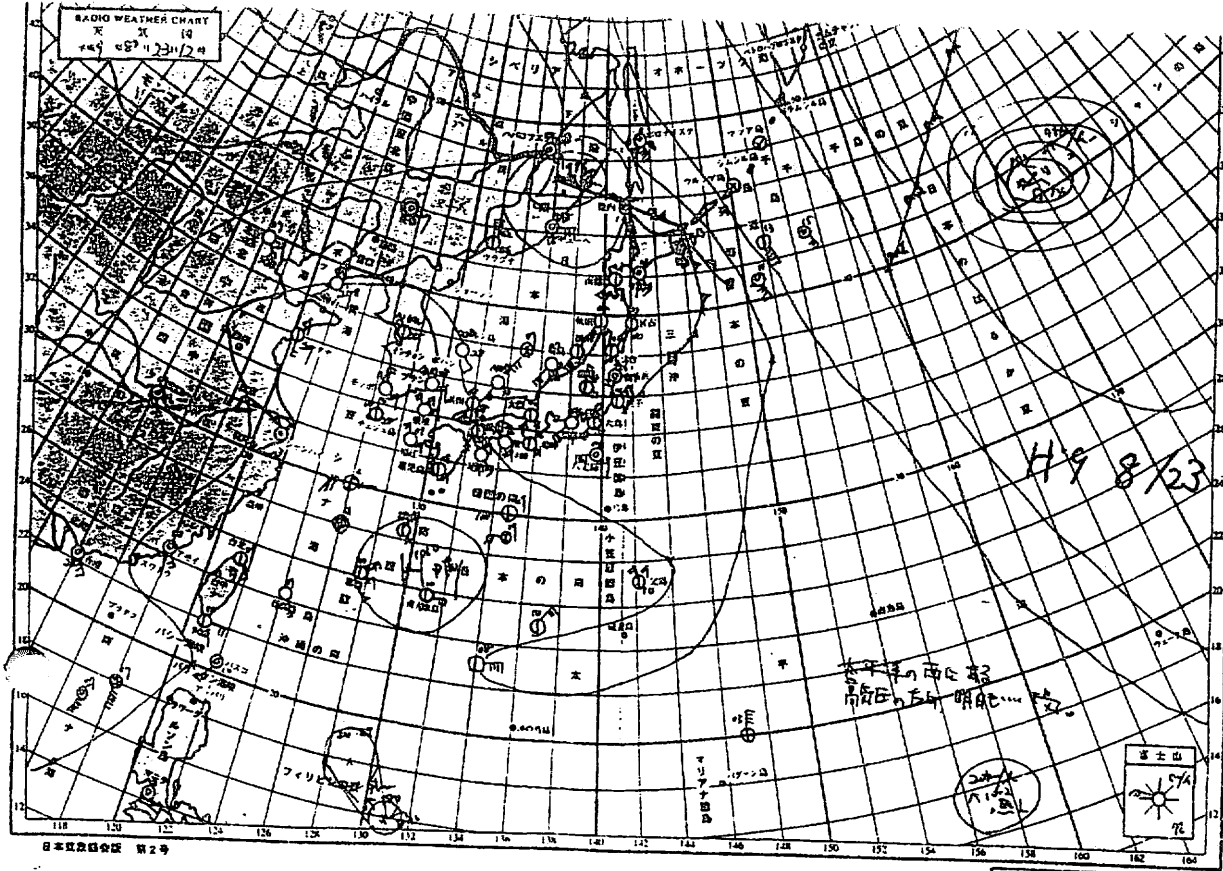
準備をする上で僕の頭が足りなかったところを今後の人の参考までに記すと、ハーケンは1パーティあたり、ナイフ3、アングル2、軟鉄1、他にFix用に8:4:2ぐらいと、予備に6:4:2ぐらい必要になる。MSRは合宿前に一通り分解してパッキンのたぐいまで入念にチェックする必要がある、分解できないのは問題外である。

以上のとおり、僕の装備はこれでよく合宿に行ったものだといわれても仕方の無い装備でした。全体的に隊全体の運命をも左右するものを準備するという緊迫感に欠けており、個人の反省を含め大きな反省点となった。

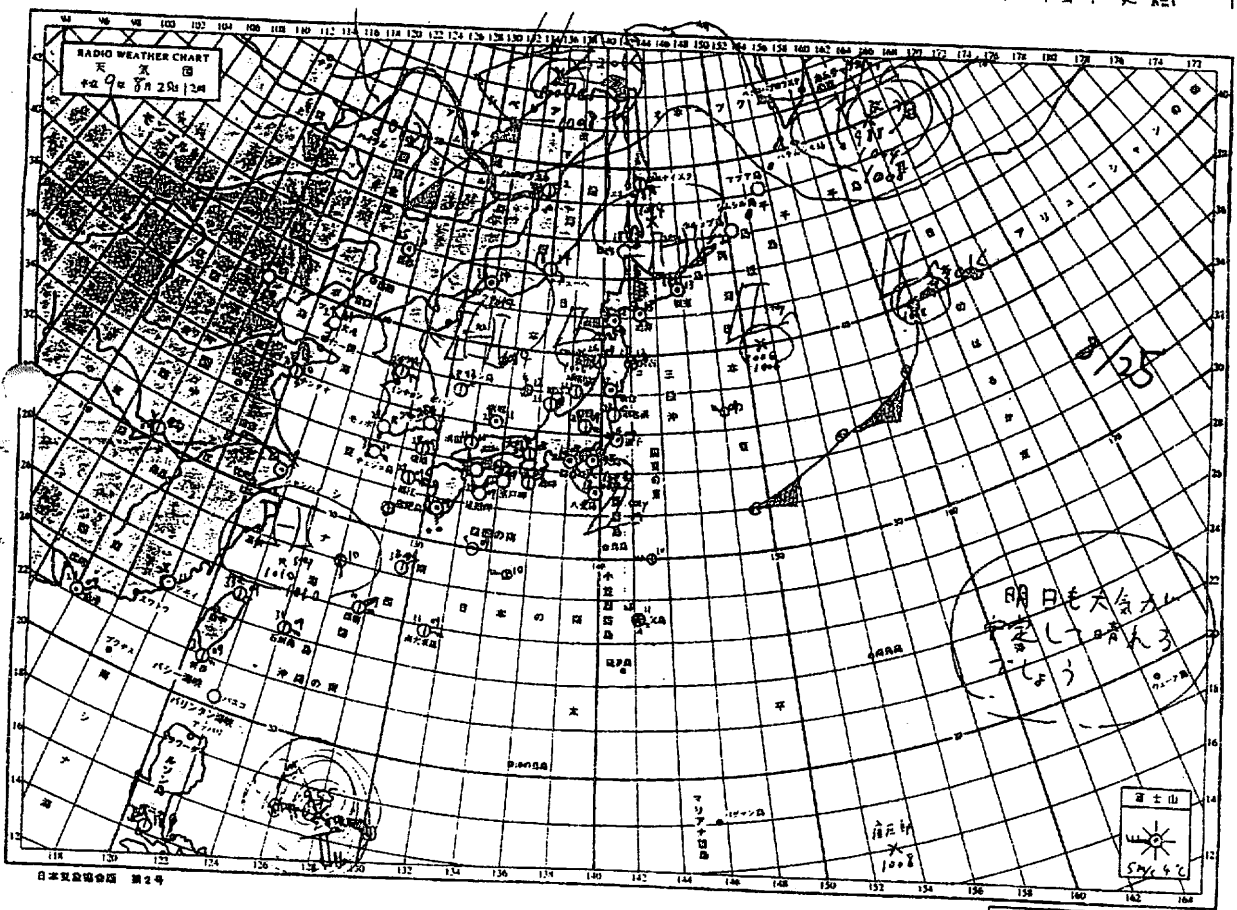
エッセンの反省

麦谷 水郷

まず、個人事ではあるけれども、エッセンの係に付いたことで、かねてからの夢であった「山でアイスを食べる」ことが達成することか、何よりもうれしかった。他のエッセンのメニューに関しても、結構新しいものを取り入れたか、ほかほか好評であったようである。しかし準備の不手際、昼めし、レーションの不足など数多く反省する点があった。やはり、装備、エッセンなどの係は全体を把握して要領よくやっていかねばならないと改めて思い知らされた。数々、不手際お許し候。

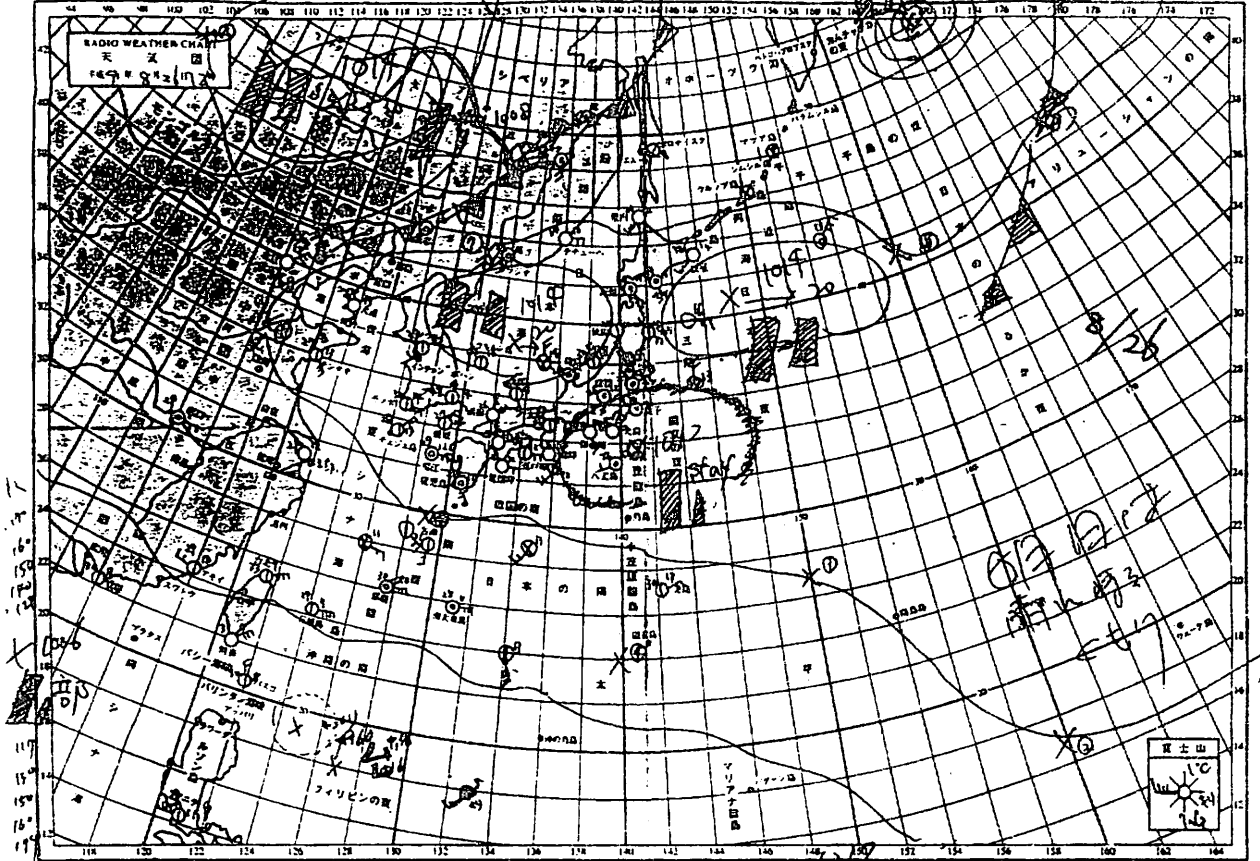


氏名 田中 英樹



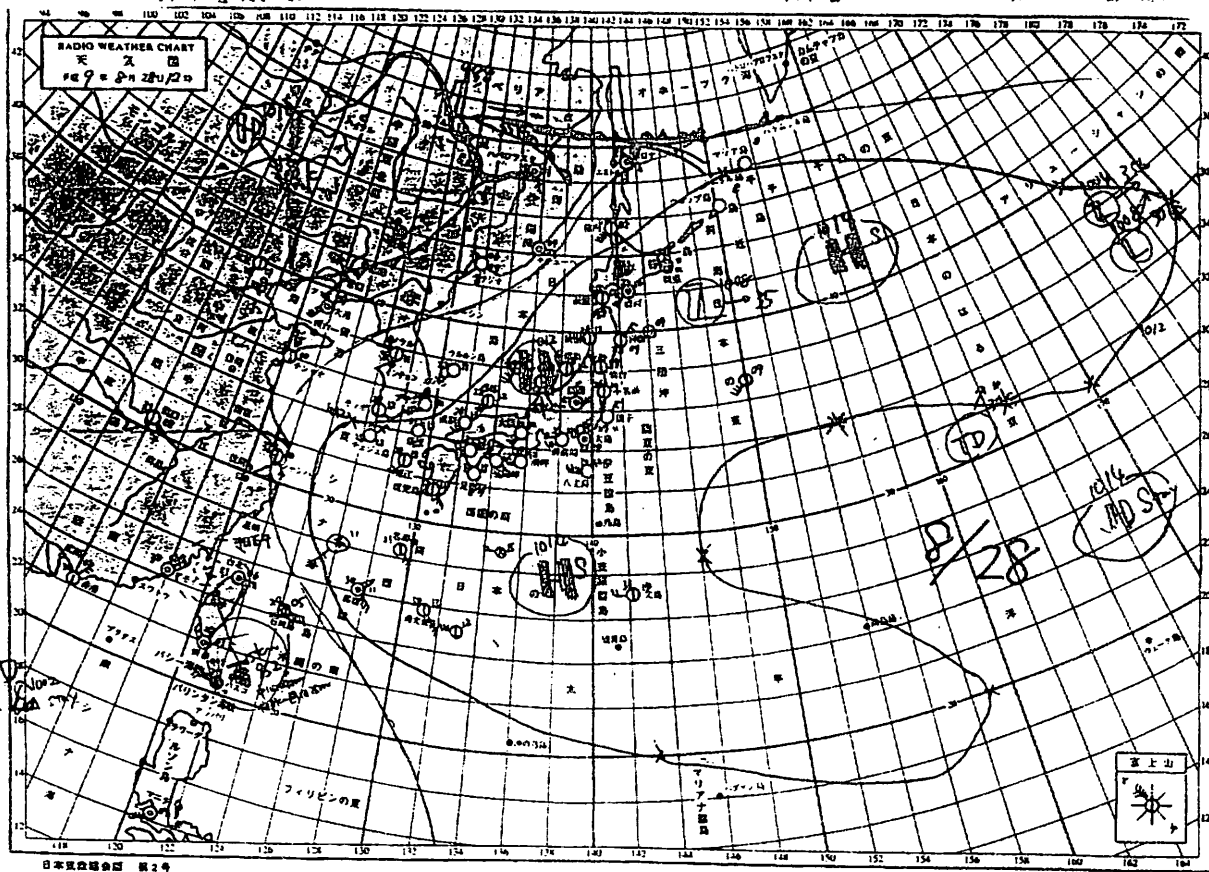
H9. 8/25 12:00

8/24の天気図は行動が長引いたためよく見ることが出来た



日本気象協会 第2号
1949年8月17日 118 88
119

気圧 1012.5

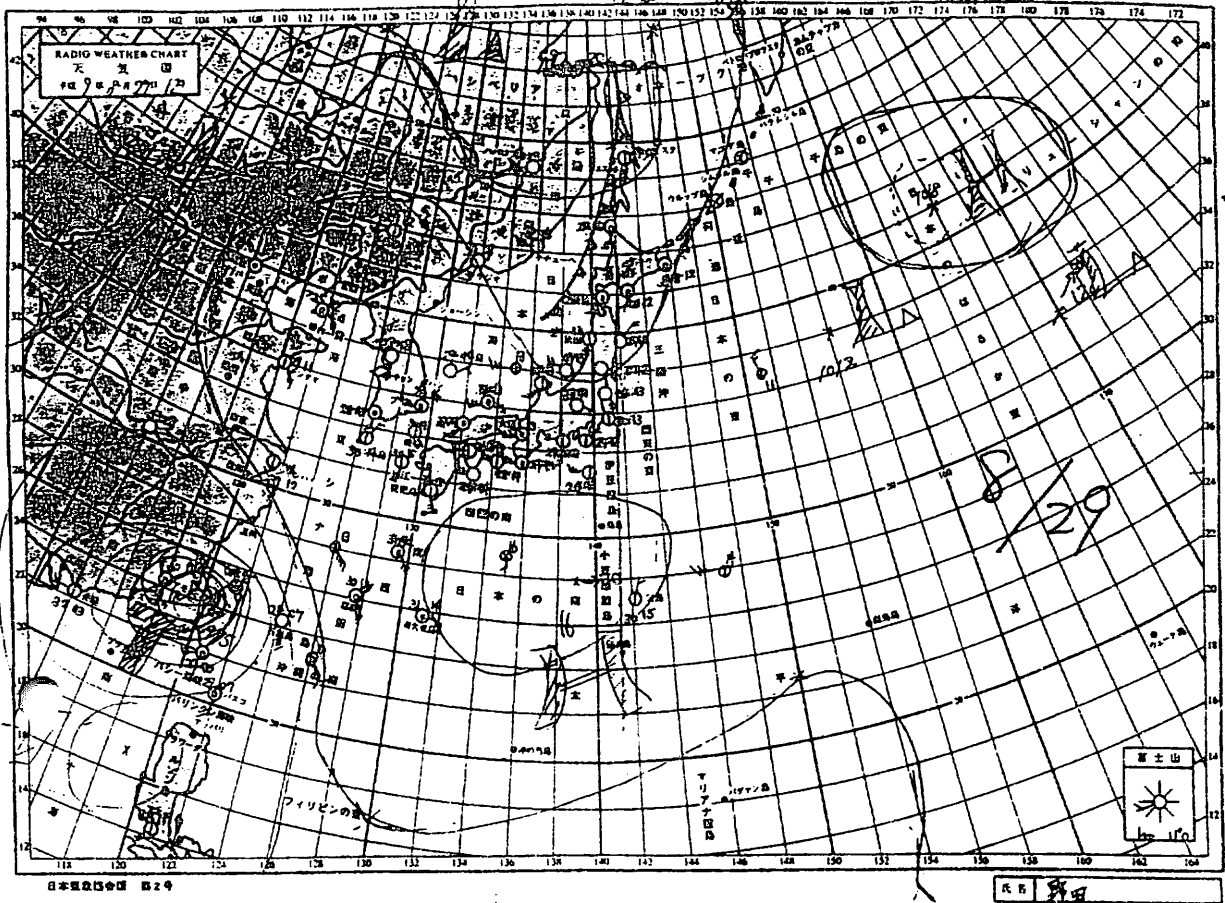


日本気象協会 第2号

気圧 1012.5

—1006

49 26.10.10



H9. 8/29 12:00

気象: 反省

全日程 快晴であった。ただ、天気図を替げなかった日や、
積図を替わらなかった。全員にでなければならぬ反省点である

田中(2)

夏合宿 反省と感想並びに総括

C.L 花谷 奉玄

〈反省〉

C.Lでありながら、夏合宿に全部参加するのは初めてだった。合宿全体の流れをしっかりと理解しておらず、その由の不手際が目立ち、亮介に言われてから気が付く事も多々あり、情けなかつた。その場その場での状況判断は適切に、しかも素早く行う必要があるが、その難しさを実感した。また、隊全員で20名という大人数を一人でまとめるのは難しいので、リーダー・部員にも、と指示を出して、リーダー会でまとめていく方が良いと思つた。また、僕の中で「こんな事言わなくて済むだろう」と思っていた事があり、指示したから、事はつく人、は、こゝろ、と細かい指示も必要だと思つた。

〈感想〉

昨年1年間は遠征に燃えていて全然、本チャートをやらなかった。だから今回は夏合宿までに十分な岩トレと本チャートを行つた。その結果、体はスムーズに動いてく、岩を楽に巻く事ができた。チャートも登山、個人目的には思ひ残す事は無い。ただ、また本山峰に登るにヒコができたから、事故が2つあつた。起つた事、予兆愈々事がある、これは山の怖さ、私たちに、最後の警告であると思う。昨年で毎年ように事故、起る。事故は常に身近にあるのと、実感している今日の事である。

〈総括〉

全体的にだらだらしていた。新人合宿の時、ようなメリハリがなかった。これは、やはり疲れから来ている事であろう。最初の2日の歩荷で、2回生はかなりの疲れただろう。トレニング量が少なくて、言ってしまう、本峰はトレニングしている人には悪いが、どう見てもトレニング不足という人間は、2年間出す、1年と、思う。また、5本加のみならず、登攀において、加え、無き人間と有き人間の差が、2年間の、見受けられた。その結果、精神的に「中々」を感じる暇が、ない。ついには事故が起つた。リストを入るのも、手段で、力量をもう少し上げるだけで防げた程度の事故だった。それだけに残念ではない。

夏合宿感想と反省

ほんだ りおりけ

雨にたたられてほとんど登攀できなかった去年とはうってかわって好天に恵まれた合宿だった。ただ去年のそんな事情で合宿の運営を理解している人間が少な過ぎて向かると不手際が目立った。

ボクは基本的にどんな所においても山行中は早い行動が必須だと思っているから、ピークについてもらえたりするのはあまり好きではないのだけれど、今回全員の行動を見るときびきびとした行動ができていたと思う。例えばピッケルを出すだけに時間をとられたり、取り付きについてから登り始めるまでやたら時間をくったりして、バスにもどる時間が毎日遅かったと思う。疲労と睡眠不足が積み重なるとおのずから今回のような集中力が欠けてこぼれやすくなる事故に結びついてくる。冬を前に全員がレジャーとしての意識をもつ必要がある。

夏合宿の反省

(野田)

楽しかった。まず一言、しかし機転が悪く、自分のなかでまあいっか星人がいつも自分を征服して見んなに迷惑をかける。自分に甘く、緊迫感が無かった。

楽しい事はいい事である。天気に非常に恵まれ、毎日が快適だった。前半は毎日睡眠不足だったが、それはそれでなかなか充実していて過ぎてしまえば・・・といった感じである。登はんも簡単な所を中心に行ったので楽しく、自信をつける意味でもよかったと思う。登はん自体は僕の場合は別に何も問題はなかった、ただチンネに行けなかったのは残念だったが・・・

機転の悪さが目立った合宿だった気がする。1日、2日目のボッカでは1回生のサポートまで気が回らずいつも注意を受ける状態であり、もっと気を遣って1回生を見ていなくてはいけなかったと思う(体力のなさが原因か)。また岩登りをする合宿であるにもかかわらず緊張感に欠ける所があり、メリハリの難しさを痛感するとともに未熟さを思い知らされた。一つのミスも許されない場であることを改めて肝に銘じたい。

上を見てもキリが無い、下を見てもキリが無い、横を見てもキリが無い。今後自分は何処へ行くべきなのか、これからの自分の活動方針をどうするべきか問われる時期にきているようだ。

反省・感想

2年 川井

大きな反省としては合宿2日目のボツカで足を捻挫してしまっただ事。その捻挫と重い荷物のため、その日は1年生に対する配慮が足りなくなっていました。捻挫はいつもの事なので大丈夫だろうと思っていたのですが甘かった様です。1年生の荷物も重く、4年生不在、3年生2名、掛けし人、という今回のパーティーでは我々2年生がし、かりしなくてはならなかったのに、その役名を果たすことができませんでした。どんな状況になっても自分の役割を忘れない、そんな強い精神力を今後身につけていきたいです。

あと、去年は天気が悪く、あまりわりを見ることできなかったという事もあるのですが、地形等をよく把握していませんでした。去年目で石崖かめられたのが事前にも、地図を見ておくべきでした。

登山に関しては、今年も天気に恵まれて快適な登山を楽しめました。私は1年生を引っぱり、計4本登りましたが、なんといってもチネの左稜線。穂高さんとfix隊として先にチネの方へ向かっていた時、途中で「目の前に見えるのがチネで、一番右端を下から登ってくるのが左稜線」と言われてそれを見た時、久しぶりにワクワクしました。実際に降り付いてみても、岩はかたく、日も当たり、高度感もあり、景色もサイコー。これがアルパインクライミングなんだ、と感動しました。クライミングジャーナルに「日本を代表するルート」と書いてありましたが、納得。在学中、できればもう1度登りたいです。

1年生を見ていても、全体的に無難に登っていたんじゃないでしょうか。今年も岩トレ中も、1年生に荷物がかかかせ、ある程度負荷をかけて登らせていたので、本陣で荷物がかかっても戸惑うという事はなかった様です。

最後に、全体的にみて、1年生に対する指示が自分身不足していました。新人合宿の時のように、もて全体を見て、言うべき事はきちんと言う上級生をこれから目指していると思います。そのための立ちはたつパワーUPも今後心掛けていきたいですね。

遠くから来てくれた穂高さん、ありがとうございます。

来てて来てくれた博多さん、V.VIのコルで聞いた話が面白かったです。

山内さん、一緒に行動できなくて残念でした。

今年、夏合宿は危険だけと楽しいものだったということも知りました。

夏合宿 個人の反省・感想 中島辰哉

[感想]

今回の合宿は天気に恵まれて非常に嬉しかった。登攀も六峰のみならず五峰、千本、本峰南壁も色々登って幸せ者であった。アプローチの歩荷には参った。あれ程苦しかったのは今までになかった。長次郎谷はいつも急で困る。今回は一年生が少なかったのが全員を登れなかったけど、大分登るのがうまくなってよかったと思う。

六峰の各ルートもふいか、五峰も負けじとよかった。本キャンで「ジャミング」を使うのは健康に良くない。しかし、頂上からのあまり目にあることのできない景色が見れて気持ち良かった。本峰南壁 AI ルートは三級のくせに1,2ピッチ目は結構怖い。浮石も多いのがつらかった。

合宿全体を通して、全体的にも個人的にも夏の縦走、サマ天での開放感が続いていて、切りかえが止まらないう合宿になったような気がする。特に準備は手間がかかっているので「昨日からやるハキダ」と思う。

下山は思ったよりスムーズに行ったことには驚いた。最後に、もっと嫌という程登りたかった。一日次濃の日も一本は登りたかった。でもまあこれでよかったのかなとも思う。

[反省] 太に体力である。トレーニング不足に尽きる。今回何回かの合宿ではいつもそれだけ反省になる。まったく進歩がなない。これから冬に向けて頑張らねばならない。一年生を見る以前に自分の心に精一杯になっている状態で上級生は務まらない。

あと個人的にはケジメに欠ける合宿であった。T、E、M 系の夜、翌日の朝飯のために鍋、ヤカンに氷をいれておこ「アイス」のことに出来なかった。前足の痛み、切りかえができていた。

夏合宿 反省と感想

田中基樹(2)

▶ 反省

- ・ ボツカの時、自分のことで精一杯で、一年生に目を配れなかった。
- ・ パーティーリーダーとしての判断力に欠けていた。
- ・ ニーバーのフットを落としてしまった。落とす物は、おしまい。
- ・ 疲れのせいか、全日程を通じて緊張感に欠けていた。

▶ 感想

初日から2日間、50kgオーバーの歩荷を強いられ、死にかけた。おんなじなことを、おんなじを願う。ハッ峰、四峰はショートルートばかりだが、別パーティーが登攀しているところが見れと、おんなじ。全日程晴れたのは、非常によく。昨年の雨ばかりの合宿が思われてきた。ただ、今年も、事故がまたのは残念だ。下草にいたらなくてよかったが、その時のパーティーリーダーであつたので、自分の判断力のなさに、つくづく、イヤ気がする。今年も、7月17日の長次郎谷を3往復もしたことに、スリルを感じた。

夏合宿感想と反省

表谷 水郷

〈感想〉

昨年は触れることさえもできなかったハツ山峰に登れていたハレクれしかつたが、もっとロングなルート…チンネ、剣尾根なども行ってみたかった。2回生にもなったらチンネを一目も見ていないのは、ちと悲しい気がする。

〈反省〉

反省点として一番にあげられるのが事故を起してしまったことであろう。詳細は事故報告書を見てもらいたい。2回生というよりは山をやる者としての自覚さえも欠けていたように思われる。このような防げる事故は決して、決して、決して、起さないと誓う表谷水郷である。

夏合宿の感想と反省

堺 崇行

体力がまだまだ不足しているということで、前回と同じ反省をしてしまった。次の合宿では同じことを繰り返さないようにしよう。今回の合宿で、本チャンの経験の少なさを痛感したので、来年はそんなことがないようにしようと思った。

医療の感想と反省

反省はとくにない。感想としては、それほど大きな怪我や風邪などもなくてよかったということだ。今回使ったものは、滅菌ガーゼの小が一枚、キシロA少量、テーピング少し、パテックス二枚、バンソウコウ二枚だった。医療缶をフル活用しないでもいいように、これからも気をつけよう。火傷などないように、MSRの確認もしっかりしよう。

反省

今回の夏合宿は、登山技術の向上だけでなく、いろいろな点で学びの事が多かった。特に準備の課工が反省すべき所であったと思う。新人合宿で、個葉の管理について反省。それをしていてはにかかわる。エッセイの日などは時間に遅れがちになっていた。前日のうちに書けることはや、として。朝は煙草の一本でも吸えるような、エッセイを作るぐらいの気持ちで書けるようにと思う。

行動中も、Fix 通過の時などは、Fix があつたことと気づけるために、最悪の場合、F が切れるとか、U-7 が切れるとかを想定して、あらかじめいって感じた。

感想

登山印象記の二つは、最終日足が、ておこしてほめたこと。エッセイと手紙までトレーニングがたりないとか。その方法かわるってか考えてしまつた。おぼてしまえば笑い言が少し歩くのが嫌いになった気がする。

それとは逆に、本午の気持ちいいこと、左下が見えな川ほどの高度の中、とどろか。AO を使うか、ギリギリの立ち上がり感がたまらなくなる。ロックに立ったとき、浮き石をさかたとき、ゲレンデとは違う楽しみがある。

岩が少し好きになった。

高橋

夏合宿 感想と反省

大木 信介

苦しい長次郎谷の歩荷を終え、暗くなつた熊の岩によやく着いた。先発隊は夫我々は休む暇もなくテントを設営し、ソックスを始めた。1時間遅れで後発隊が到着し、夕飯と夕食を食べ、僕はくたれ寝た。次の朝は7:00起き、僕は6:30頃、明るくなつた空に起これる。ボートはまたテントの外を覗くと、眼前に針の木がデカクと構えていた。その鮮やかな光景に驚き、テントを這い出てみれば、360度の美しい風景が広がっていた。左にはハコ峰が、右には源次郎屋根が、後には剣岳本峰が、前には針の木が見えた。最高だ。先輩が此を天国と呼んでいた理由がよく分かった気がする。なおにもこれから登る予定の岩が目の前に迫っているのがうれしい。ここはすばらしい環境は他にないだろう。ここから僕らの岩登りが始まる。

初めての本陣は亮介と深沢と中央大に登る。最後に登つたのもソルトだった。寬めた下りくそなレバックを駆使し、なんとか登った。その高度感、緊張感、は日頃の岩山とは比較にならない。全部で6本登ったが、中央大が一番記憶に残るルートだった。合宿中には他にビーフ訓練や晴天の沈みなどいろいろあった。沈み日に体中に落着ききたが、それがくそ残り残っているのを最近発見した。これも一つの反省といえよう。二度と同じ過ちを犯さなう。今回の合宿での一番の反省は最終日の前夜から激しく落ちてしまったことだ。つまづいた足が浮石を踏んでしまい、落ちて、その浮石が腰に当たったのだ。その日は一日中、一步一步ズキズキした。この程度でよかったものの、へたすると大きな事故に繋がっていた。前から思っていたが、自分は歩くのが下手でよく滑る。これからは気を付けて歩くようにしたい。自分の汗は隊の迷惑につながるものだから。

夏合宿の感想と反省

大須賀 友一

<感想>

夏合宿は、B、Cに着いてしまえば後は、
楽園のようだった。でも、B、Cに着くま
では本当にきついボツカであった。しかも
来年のことを考えるとブルーになってくる。
本峰に立てなかつたことには、不満が残るが、
ハツ峰のBフェース以外のルートは、ほとんど登りたい。
チネネの左稜線にいったこともよかった。
来年は、本峰と、5峰に立たいと思っている。

<反省>

一番反省すべき点は、やはり1日目の1ピッケ目の
転落である。寝不足では、きりいて全然体
が起きていなかつたと思う。落ちたすぐは、
何も思わなかつたが、初日、一日歩きながら
考えると、考えれば考えるほど恐しくなった。
もし、大きな石でもあつたら、もし、下かかケだつ
たら、もし、太い木につかまっていなかつたら
どうなっていたのだろうか。

その後の山行、特に下りは、~~暑~~気をひきしめて
歩けたと思う。山に対する気持ちがかきひしくな
たことは、よかったことだと思ふ。

深沢遊

5 10 15 20
前々から夏合宿の故郷が苦しいと聞いていた
ので、継まから帰、ここからはトリーニング
をしようと思っ、ていたのだが、結局家に帰、
ていて少しもでまなかつた。予想どおり重い
荷物を持ち、ハラないか心配なつた荷物も、
体力的には思つたほどまづくなかつた。しか
し肩が丸と腰が丸が痛くて、故郷か2日間
本当に良かったと思ふ。初日のヤブにもキレ
てうとなつたが、帰りに同じ道を通つてみて
そんなひどい道ではなかつたことに驚いた。

その後の岩登りの日々は故郷の苦しさもい
か、とはすめに十分なほど楽しいものだつた。
岩を登る感というのはこゝろいもので、登つてい
る最中は全身がひからつたまづな感じかした
し、夕暮にづく時にはせいぜい三〇分でした。

15 20
京大ルートでつかんだ岩がクグクと下か
きたとマヤ、又望米大ルートでなるべくフリ
ーでいこうとして落ちるところにたつた時は血の
気が引いた。安全が一つ。このような体感
をした後しばらくしてまた本当にびっくりする。天
空の良き日などその可なり増大になる。

夏合宿

日高 弘次

〔反省〕

・精神的に、心の中で負けていたのが、体力的にかなりきつていたのか、たぶんその両方だと思うが、B.C までの雪渓でバテた事です。雪渓に入ってから最初の一本の時に、ヘッドラを出すためにレーショを食べて座ってというふうによりとは休憩できなかつた。この次のピッチから体が重くなったように感じたと思う。これはやはり「休憩できなかつた」という精神的な所で負けに入っていたんだと思う。最後迷惑かけてすみませんでした。

・テニ場でぼけっとしていた時間が多かった。探せばやることなんといっぱい転がっている。自分で仕事を探さなければ。

・全般的にやはり体力が足りない事です。これから個人山行に行きます。

・何をやるにしても動きが遅かった事です。気をつけます。

・山岳会の中で一番山に入ってる時間が短かったという事です。山の体力は山でしかつかないというのを実感させられました。

感想。岩に対する緊張感が後半緩んでいた。

最初の2日のボッカは嫌で嫌でよかったけど、今思えば自信になりました。

初めて本ネコというものを体験して、岩の大きさに驚き、少し嫌にもなりましたが終了点に立ってみると、うれしくて、登ってよかったと思いました。本山峰とチネネ両方とも登れて良かった。特にチネネが良かった。

本ネコの核心部を登る時は、ケシネでやる時以上に息が荒くなつて動きも堅くなって余裕がなくなつて疲れたけれど登りつめて終了点に着いた時の達成感はずいぶん大きかったです。

きつい所もかなりありましたが、自分に少し信をもてました。楽しい合宿でした。

夏合宿の反省と感想

島 俊彦

反省

落石の恐怖を身をもって感じた
 落石はかぶりやびい 本当にやびい
 みんな入らなくて下人が見ないで
 上を回って来たら
 あと 相変わらず大気団が喜ばない

感想

しかし本当に山はいい
 夕陽のオレンジ色の時の星空は忘れられない
 若登りの楽しさも少しだけわかった。
 夕飯がうまい
 タンモもうまい
 景色は最高
 心も最高
 かぶりかぶり山はいい
 しかし、僕は一番の時は山を下りて自分の布団で
 寝ている時だ"という事を知っているのだ(けれど)"

反省と感想

岸本俊朗

今回の合宿は天候に恵まれ、登山の楽しみを十分に満喫することができた。しかし反省点、問題点も多く残った合宿だったと思う。事前準備に予想以上の時間がかかった。新人合宿の時は前日の日で十分だったが、今日は全体の準備の終了が夜9時を過ぎていて、とんとなく荒れたらしい霧団気の中での出発となった気がした。この件に関してはOBの松沢さんから厳しい指摘があり、今後は出発の前々日に準備日を設けるなど改善してみたいと思う。次に事故について、大事故というわけではなかったが、自分はこの現場に居合せていた者の一人としてそこから学ぶ事は多かった。事故が起きてから反省したところでは無意味と言えはそれまでなのだが、その時、自分にもできることはあったと思うと悔まれて仕方がない。一声、注意を促すとか、ほんの少し気を促うだけで未然に事故は防げたと思う。

又、実際に本キャンプの登山を経験して落石をさめるのとする恐怖を身をもって体験した。とんとんに神経質に登っても予期せぬ岩がはがれたり、とんとんはがれた岩が落ちてきたりして、幾度となく冷汗をかいた。

最後に初日と2日目の歩荷は厳しいものだったが、食糧事情は充実していった感じがした。皆意外に体力がっていたのには驚いた。



SHINSHU UNIV.

感想

今回初めて夏合宿に参加することができ、本当にうれしかったです。岩トレを続けているうちに、岩にとっかかりしているRさんの気持ちかなんとかわかるような気がしました。本4ちゃんというものに、ただだん行きたくなってきたんです。今回は、ハッ山峰だけで、4ちゃんには行けませんでしたが、ぜひ4ちゃんに行ってみたいです。あと、エッセイのメニューにはびっくりでした。麦谷君大変だったでしょうね。お疲れさまでした。

反省

前回の合宿(新人合宿)よりも自分の内での精神面が強くなった様な気がします。弱い面もまだまだ残っています。少しずつでも克服していきたいと思います。体力はまたまたpower upできますから。そして、岩トレにもっと行って上手になりたいです。また、体力などのことではなく、合宿中にもっと積極的、自的的にいろんなことに動かなかったことを反省します。みんな同じ様に疲れているのに、働いているんですものね。

+α

そして、事故についての感想ですが、ほろろり言って死ぬかと思いました。人間は不思議なもので、落ちる際、ずっと数秒間たつたんでしょうか、いろんなことを考えたり感じたりすることができました。事故は自分にも十分に責任があります。もっと気を引き締めなければ、山に行きたくありません。そう思いました。

Sep. 4 '97 (Thu)

夏合宿の感想と反省

佐々木 恵子

今回の合宿は苦しかったし、恐しかった。初めて30km程の荷
 を背負い、イライラする道を通り、すべったり、転んだりと初日
 から精神的にも肉体的にもやられてしま、たような気がする。
 らに、追い打ちをかけるような本チャンでの高度感。前半(合宿の)
 終わ、た頃、博多さんに「この合宿で楽しかったことなんて
 いんじやない？」と言われ、困屋だ、た。だけれど、合宿の
 わ、た今とな、ては いい思い出(?...?) かもしれない。

今回の夏合宿でも またまた トラブル・メーカーとなり、"岩に墜ッ
 く ない 痛"を現病させてしまうし、体力的にも またまた
 (歩荷。練習の時、おと荷物很重
 あるし、反省することかたくさんあるのだけれど、それら1つ1つ
 言、き、た、た)

次のステップへの糧にしていきたい。こんな私ではあり
 すが、励まし、支えてくれた皆様、ありがとうございます
 だ。皆様へのメッセージとして、See Ya! ならぬ、

Love Ya! という言葉を送、て、終わりにします。

その他

〇何をすることも人に頼、てしま、た。(甘えかあった。)

反省

- ・ ピンキークが下りた。
- ・ 「おきてくだーい」といわれも起きるまでに時間がかかる。
「おはなれおはなれ」といって、「おはなれおはなれ」
- ・ エンペル係のとき、食べおわって皿がちらちらのりど無視した。
- ・ しまへんがよくなった。特に「わい道を通るときにもおそうに場」
- ・ とは人のとき、アノニが下めれた。2段目には又めるのが
「わかった。」 → 教も二倍するのみ。
- ・ 天竺団が下りすまいた。 → 書くのみ。
- ・ 下りかにかきである → 注意を要する
- ・ 準備の日に降って個々つせうに入れた。

感想

今回初めての本知っというものを味わって思ったことは右は怖い
という事です。いえ、右が二つに一つあり、右を登っているとき
に左への集中を要するといふ、坂を抜いてしまつて、が二つに
一つ、1日目、2日目くらいまでは大丈夫でしたが3日目から
からちよと、なれてきたせいか、他事を考えたりもするといふ
は、と坂下には時に2つ3つ登っている。二つは二つに思ひ流し
もし二つ間に浮石もつがんで、絶対落ちたに決まらん。

反省

山内 哲文

堺とともに5日目に入山した。「堂室からもハジゴ谷乗越からもたいてかわらんよ。」と言って金のかかりハジゴ谷経由で熊岩へ入ったが、結果的に堺をたますことになったようだった。堺は「くしょ、たますれた。」と連叫しながら歩いていた。少し心が痛んだが地図で見ると、ほんの少し長いだけである。登はん面では、中大ルートなめていた。「こんなところフリーでぬけてやるぜ。」と登っていたが、予想以上に難しく「ADL5やえ。」と思った時には逆にピンがなくなっていた。後悔することになった。また深沢と岡本はさくさくと登ってうまかったが二人とも無口であった。千代ネにいけなくて残念だったか仕方ない。

感想

山内 哲文

熊の岩はとてもいい所だと感じた。晴天の沈殿で1日いてもあきない所だった。ジブリのアニメにでてきそう。久石じよーの音楽が流れてどうな風景だ。そして何よりも、長次郎谷のぼつくる途中で見あげる、歩けば歩くほど遠くなるような、「永遠にたどりつかぬ一人いもぬか。」と思わせるような熊の岩が好きだ。おかし、ササキ岩のモデルとなったササキエーが1回目山会岳をやめるとき雑人雑感に「……でも熊の岩からみた星空はずっと忘れないぜ!」などと書いていたのが、今ごろになってやけに骨身にしみる。

4. 事故報告

源次郎尾根における事故報告

8月27日(水) 行動予定: 源次郎尾根縦走

Xメンバー: リーダー 田中(2), 麦谷(2)

島(1) 岸本(1) 川村(1)

事故者: 川村 朋子 (部歴1年, 理学部生物学科2年)

場所: 源次郎尾根1峰手前, 長次郎谷側に落ちる枝状の
うち, 末端から2番目のル>セ

当日の行動: ESSEN起床3:30, 熊ヶ岩B,C 出発5:00

6:18 末端到着 ○

10:20 源次郎尾根1峰手前で壁にはりつかす ○
(ルート間違いのため)

10:40 事故現場であまりル>セを懸垂下降で下る。○

事故1☆ 13:10 懸垂下降後, サイルเชックをしている時に, サイルが浮石に
触れ落石, 事故者のアゴに当たる。○

事故2☆ 15:00 事故現場は危険であり, そのまま下降し, 長次郎谷に
たどりつくが, シュルッドに滑落 ○

18:05 途中入山の山内, 工場のサポートを受けながら, 熊ヶ岩
B,C 着。○

事故後の状況 ○ 事故パーティーに最も近い位置にいた原田(本山峰南壁隊)
に状況が伝わった。

○ C, Lの花谷が事故を知り, Tへの17:30 TへのT。
(チ>ネを登攀しており, 無事通過した)

○ パーティー全員が軽傷と判断しており, 状況をあまり
理解できていなかった。

○ 事故パーティーは事故後, その場で応急処置を行った。

反省と今後の対策 ○ 団体装備の医療品は充実しているが, ベースにあり, Tのため, T分
処置がとれた → 今後, 個装での予備の医療品は自給す。

○ 上級生は1年生の体系子を常に見ておく。決して負を押し
ないよう心がける。(当日は事故パーティー全員が疲れていて,
気がゆるんでいたと思われる)

- ・ 著石が顔面を直撃していた場合、外傷は軽度であっても、内部がどうなっているかは素人には判断できないので、B、Cに上げず、剣次に行くべきであった。結果として次日は下山させたが、下山は早い方がよい。
- ・ トランシーブによる交信は事故者を動揺させる場合があるため、状況が許せば、むしろ離れた交信を行う。

今回の事故は、一歩間違えれば死に至る事故であり、厳しく受け止めている。4年生不死でありながら、全員の「登りたい」という意思に流され、ブレーキをかけるべきであったリーダーである私の判断ミスが事故につながり、たとえ認識している。無理なスケジュールであった事、全員が疲れている事を知らず「気を付ける」という一言しか声をかけられなかった事を反省する。リストを1日でも取っていたら防げる事故であったかもしれないだけに、残念で仕方がない。今回は関心には現役だけで処理することができたが、事故が大きければ我々だけでは処理できない。どうしてもOBや警察の手が必要になる。そうなれば他方面に多大な迷惑をかけることになる。一度遭難が起これば事故者のみならず、その家族や関係者全員に迷惑をかけることを改めて認識する必要があり、指導していくなければならないといけな。最後にお世話になった文藝研の金田氏、ご心配をおかけしたOBの皆様には心から御礼申し上げるとともに、二度とこのような事を起こさないよう心がけていきます。お世話になりました。

C.L

花谷 泰広

▷感想 夏合宿の事故の反省と感想

ルートの入が、この事故の始りであった。

田中基樹(2)

それまで、ものすごい「アブコキ」を強いられ、

やと「陸線工」に出たと思ったら、絶壁に

はさまれ、敗退することにしたのだが、

そのときのみんなの精神状態は、やる気の

なごかににじみでているものであった。という

はこそ、上級生が「一年生」を引っぱり、

なければならぬのにも関わらず……

事故が起きたとき、私はなにをすべきか、

頭の中で整理できていなかった。とにかく、

みんなの所に行くことしか頭の中にはなかった。

今、考えてみても、あのとき「ニルンド」の奥深くに

「川村」が入っていったらと思うと、もと、

「わかりなげなげ」と思う。

▷反省

◦「シーバー」で、B、Cに、状況をくわしく説明
すべきであった。

◦上級生は、一年生の基準でルートを決定
すべきであった。

◦山では、回復の見込みはないので、「川村」は
すぐに下山させるべきであった。

事故の感想と反省

川村 朋子

今回の事故は、私に生命の危機を感じさせるものであった。
ニルンドに落下している途中、このまま落ち続けて、そのまゝ死ぬ
たなァーと客観的に自分をみている自分に気づいた。今でも事
故に逢うと外から冷静に見ている自分を感じたが、今回もは
っきりとそういふ自分を感じた。事故直後は、特別興奮もしていな
かった。しかし、山から下りて、1か月経った頃から、事故が大変
なものであったこととして、山が恐くなった。生きているのが、あたり
前だった今までだが、実は偶然の連続だったということは今
更ながらわかったような気がする。ほんとうに、偶然なんだと思
う。明日はどうなるかわからない世界として自分。

また、今回の事故は反省すべき点もある。落石については
予防ができたと思われるし、自分の注意不足を感じる。自分の
注意不足で、周囲の人々に迷惑をかける、嫌な思いを持たせて
しまったことを反省する。そして、みんなに感謝します。(ほんとうに
ありがとう)

剣岳本山峰南壁における事故報告

8月29日(金)

行動予定：本山峰南壁Aルート～北方稜線

メンバー：リーダー・中島(2), 岸本(1), 日高(1)

事故者：日高 弘次 (工学部1年、部歴1年)

場所：本山峰南壁Aルート左積 2P目

事故の状況

本山峰南壁A左積ルート2PAにおいてハングがあり、リードの中島は、ハングの下にリングボルトがあり、そこにランナーをとってハングを右から回りこむようにして登り、ハング上2mくらい所でピッチを切った。セカンド1人目の岸本は中島の指示通り中島と同ルートで登攀、問題はなかった。2人目の日高はハング下でサイルがハングを通っており、中島は指示を出したか、それを忘れたハングを直接ゆがめようとした。ところが、ハングを起そうとして浮石をつかみ、落ちて、サイルで止まった。墜下距離は1m程だった。日高は右手を負傷したが、他は外傷はなく、中島と同ルートで支点にたどりつく。登攀は終了点まで行なった。

事故後の反省

- ・日高は中島のルートに指示したにもかかわらず、それを理解するできなかったから事故が起きた。日頃の岩上で、サイルが通っている所が必ずしもルートではないと教え、実践していたが、本チャンのフレッシュマンでは練習の成果が発揮できなかったのかもしれない。
- ・中島がピシイしていたポイントからはフォローのユルが見えず、中島は口頭による支持を出し、適切であった。
- ・由に今回の事故は日高の不注意から起きたものと判断する。

日高の不注意とはいえ、事前には岩登りに対する1年生の上達ぶりや精神力などを上級生はしっかりと見ておく必要がある。やはりこの事故でリーダー部員も不注意と口平ばかりではいけない。また、ルートのついていない本山峰南壁の崩壊は著しく、1年生を連れて取りつくルートではないと考える。今後は個々の力量とルート研究が必要である。

C.L 花谷 泰広

~ X E ~

登山

夏
又
合
宿



S.A.C

信州大学
山岳会

発行日 97.11-12 松本